

國學院大學學術情報リポジトリ

1904年の第2インターナショナル・アムステルダム大会と1905年のグローブ大会(フランス社会党SFIO創立大会)(2・完)1905年のグローブ統一社会党結成大会とジャン・ジョレース

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 横山, 謙一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001165

1904年の第2 インターナショナル・アムステルダム大会と1905年のグローブ大会でのフランス社会党 SFIO の創立（2・完）

——1905年のグローブ統一社会党結成大会と
ジャン・ジョレース——

横 山 謙 一

第4章 統一社会党結成への困難な途

アムステルダム大会以降、右派フランス社会党 PSF の立役者ジャン・ジョレースの政治的姿勢に急激な変化が生じた。党内外からの厳しい批判にもかかわらず、これまで彼が擁護し続けた右派フランス社会党 PSF の政府与党急進党との連立＝「左翼ブロック」を支持する議員たちと訣別して、党の統一を優先させる政策に転換したのである。一見この政治的転換は、ジョレースはブリアンやヴィヴィアニのような大臣への、そして首相への途を目指していたと見るならば突如の変身であるかに見えた。しかし、彼と親しく交わり良き理解者であり批判者でもあった第2 インターナショナル国際社会主義事務局議長であり、第1次世界大戦開戦時にベルギーの内閣に入閣したエミール・ヴァンデルヴェルドは、ジョレースにとっての社会主義は熟慮と内省の結果たどり着いた選択であり、大臣や首相になった友人にとっての教義とは一線を画するものであったと見て次のように彼の回想録「一活動家の回

想」に書いている。

「ジョレースは少なくとも敗者の様相で(アムステルダムから)フランスに帰国した。ところで彼の生涯において、だいたいのところ対極をなすアムステルダム以前とアムステルダム以後の2つの時期にはっきりと区分できる。アムステルダム以前には彼はフランス代議院の副議長であった。彼は手を尽くした外交儀礼でイタリア王のパリ訪問をもてなした。彼は『左翼ブロック』の立役者であり、かつてヴァルデク・ルソー内閣の大黒柱であったように、コンプ内閣の大黒柱であった。彼は頭のとっぺんから爪先まで疑う余地のない社会主義者であった。しかし彼はたえず改良のためや社会主義とは関係のない大義のために枠外の活動やプロパガンダに追われるままになっていた。ブリアンとヴィヴィアニ、それにいく人かがブルジョア政党に加入することになる。これとは逆に、彼自身はジュール・ゲードに、そしてとりわけいわゆる彼の社会主義的良心の導き手となったエドゥアール・ヴァイアンに接近した。彼はもはや左翼政権与党の事実上の首領ではなくなり、敵側から嫌われ、同時に広く敬愛されたインターナショナル・フランス支部のリーダーとなった。彼以外のものたちは、大臣に、植民地総督に、首相になるため社会主義の共同体から自らの意思で縁を切った。ブルジョアジーは彼らを特上のご馳走でもてなした。反対に悔い改めない国際主義者のジョレースを『外国の弁護人』として非難した。それからは、自分で言ったように『誹謗と中傷の暗雲の最中を』歩むことになり、社会主義と平和のため死と契りを結ぶ。

ジョレースの社会主義者としての活動において、1904年の前と後では、深く本質的な相違はなく、誰もそれに異議を申し立てるものはいない。アムステルダムでの転換は、大会の決定や多数派の決議を規律により受け入れた結果であると信じるならば、あまりにばか正直でうわべしか見ない見方である。ジョレースと親しくなり彼の生涯の様々な時の打ち明け話を聞かされた人々は、彼には突如の改心を生じさせた雷の一撃 le coup de foudre du chemin de Damas ⁽¹⁾ はなかったことを知っている。彼の教義と態度

に生じた変化は内面の長い内省によるゆっくりとした成熟の結果であ
⁽²⁾った。」

アムステルダム大会から帰国後すぐの1904年 8 月30日に左派社会党
 PSDF は中央協議会 *Conseil central* を開催し、インターナショナル・パリ
 大会とアムステルダム大会が決定した諸原則の基礎の上にたって右派社会党
 PSF と交渉をおこないたいと意思表明した。⁽³⁾しかしそれにもかかわらず右
 派社会党 PSF はその後数週間沈黙を守った。そして 9 月後半になって統一
 は段階的にしか実現できないとするジョレースは最初に歩み寄り *rap-
 prochement* のための「協力委員会 *comité d'entente*」を設置することを提
 案してきた。⁽⁴⁾左派社会党 PSDF の中央協議会はいたずらに時間を引き延ば
 しかねないこの提案を退けて、インターナショナルのアピールに答えて出来
 るだけ早くアムステルダム大会で決定された階級闘争の立場に立つ社会党の
 統一を実現するための「社会党統一委員会 *commission d'unification socia-
 liste*」を結成することを逆提案した。⁽⁵⁾そして10月23日に右派フランス社会党
 PSD 全国協議会 *Conseil national* は統一委員会に交渉のために代表を統一
 委員会に送ることを決定する。⁽⁶⁾11月15日に左派社会党 PSDF 側からゲード、
 ラファルグ、サンバ、ヴァイアンが、右派社会党からはジョレース、ブリア
 ン、ルノーデル、ヴィヴィアニが出席して会合を開き、統一委員会を直ちに
 結成し、統一の方法を検討することを開始すると決めた。⁽⁷⁾統一委員会の第 1
 回会合が11月29日に開かれ、左翼ブロックと左翼委員会から右派フランス社
 会党 PSF 議員団が離脱し、両派社会党からなる独立した議員団を作ること
 などを内容とした統一の基礎となる覚え書きが起草され、12月12日の第 2 回
 会合で検討委員会に提出された。⁽⁸⁾検討委員会は小委員会におくり統一された
 協約書を作る作業を開始する。議員と機関紙に対する党中央の統制など統一
 の障害となる問題が議論された。同年12月30日に統一委員会は統一の基礎と
 なる共同宣言 *déclaration commune* の文案を採択する。⁽⁹⁾その内容は 7 項目
 にまとめられていた。1) 新政党は階級政党であり、改良の党ではない。2)

党議員団は統一され、軍事予算などすべての予算に反対する。3) 各議員は県連合の、全体の議員団は党中央の統制に従う。4) 党機関誌は議論の自由は認められるが、行動において県連合と党中央に従う。5) 議員団は党中央には5名以上の代表を送らない。6) 党議員は命令的委任に従い定額の党費を支払う。7) 党大会はアムステルダム大会時の党費を支払う党員数と1902年総選挙の得票数に比例した代表によって構成される。⁽¹⁰⁾ この共同声明案「統一協約 le Pacte de l'Unité」は1905年1月13日に調印された。この「協約」は右派フランス社会党 PSF のがわではこれに先立つ1月10日の全国協議会⁽¹¹⁾で採択された。

統一社会党が結成される前夜に、大きな問題として立ち塞がった障害となったのは、アムステルダム大会で決定した統一の礎となり原則を定めたこの「統一協約」であった。この協約書は上記で見たとおり左派社会党 PSDF の一方的な押しつけではなく、右派社会党 PSF と数回協議を重ねた末に締結された協約であった。しかし、この協約の内容は同党内の左翼ブロックを支持する議員たちの強い反発を招く。

右派フランス社会党 PSF の側では、1月30日、オーガニユール、ブルトン、ジェロー・リシャールらの右派社会党 PSF の議員団の左翼ブロック支持派は、代議院議場のあるパレ・ブルボンで会合を持ち1月18日にいわゆる「フィッシュ事件」⁽¹²⁾によって弱体化したコンブ首相が辞任し、積み残された政教分離法案の課題を残されたルーヴィエ内閣が成立したことで、この政権の右傾化を防ぎ、左翼から支え、内閣と協力関係を維持することを確認し、⁽¹³⁾間近に迫った全国協議会に臨んだ。

右派社会党 PSF の側では、1905年2月7日に全国協議会⁽¹⁴⁾がロワール県の代議士シャルパンティエ CHARPENTIER 議長の下に開催され、議事日程 ordre du jour は「社会党統一と議員団 l'Unité socialiste et le groupe parlementaire」と定められた。この全国評議会には議員団は党執行機関に従い社会党統一を成し遂げるとするジョレース案と、社会党統一を実行するが共和主義の一部の政党(急進党)との提携は臨時的には認められるとするブル

トン案が提出された。全部で53票が投じられジョレース案33票対ブルトン案13票、棄権7票でジョレースの提案が可決された。しかし議員に限ればジョレース案6票対ブルトン案11票、棄権3票でジョレース案が少数であった⁽¹⁵⁾。一応全国協議会では社会党統一を支持するジョレース案が圧倒的多数で可決されたのである⁽¹⁶⁾。

しかし左翼ブロック支持議員たちはなおも諦めず、2月9日に午後の議員団の会合を開き、賛成19票対反対4票で議員団が左翼ブロックに残留すること（ブリアン動議）が決められ、また全体一致で全国大会の開催を求めた⁽¹⁷⁾。

その結果1905年3月26-28日に議員団の要請に基づきルーアンで臨時全国党大会が開催され、これが最終決着の場となった。ルーアン大会では政教分離を完成するために、左翼ブロックに留まることが必要であると主張するジェロー・リシャール、ブルトンらの左翼ブロック支持議員はあくまでも社会党統一を強く求めるジョレースの批判を受け、最終的には圧倒的多数で「統一協約」が可決され、右派社会党 PSF は左翼ブロックから離脱することが決められた⁽¹⁸⁾。一方、左派フランス社会党 PSDF の側でも右派社会党 PSF に対して理論上の妥協を不安視して統一に抵抗する動きも多少は見受けられた⁽¹⁹⁾。⁽²⁰⁾

しかしこの時点で社会党統一の大きな障害物はほとんど取り払われ、1905年のグローブ大会でフランス社会党の統一が果たされる。

第5章 社会党・労働者インターナショナル・フランス支部 SFIO 第1回グローブ創立大会の開催とフランス社会党統一の実現

第1節 グローブ大会前夜のフランスの政治状況

すでにアムステルダム大会に先立つ1902年3月の右派フランス社会党 PSF ツール大会でも、社会主義者一個人のブルジョア政権への入閣を通

常の政治権力支配の始まりとしてではなく、余儀なくされた過渡的例外的な便宜手段とみなすべきであると同党極左派のルノーデルは主張し、ジョレースも入閣問題については党全体の同意が必要であり、個人的には今後新たに入閣するのは大きな誤りであると述べている。⁽²¹⁾
⁽²²⁾ブリアンの提案により入閣問題について「党大会が変更しない限り、次の議会任期からはいかなる社会党員も大臣として内閣に入閣 la combinaison ministérielle しない」と言う決議案が採択された。⁽²³⁾
 1899年6月22日のヴァルデク・ルソー「共和政防衛内閣」成立から始まる急進党との「左翼ブロック」は継続されたが、社会主義政党からの入閣は可能性がほぼなくなっていた。

ジャン・ジョレースは1902年4月27日-5月11日の総選挙でアルビII区から代議士に選出されて代議院議員に復帰し、かつての入閣支持派を基盤とした右派社会党 PSF の指導者となったが、ヴァルデク・ルソー内閣を継承して、急進党を主体として1902年6月7日に組閣されたコンブ内閣は、社会主義勢力からの支持は閣外からしかのぞめなくなっていた。ジョレースは1903年1月13日の代議院総会での投票で4人の副議長の1人に第3位の得票で選出され、第2回投票では過半数に僅差に迫る票で筆頭副議長に選出された。⁽²⁴⁾
 ちなみに議長は、元首相で急進社会党のリーダーであるレオン・ブルジョア ⁽²⁵⁾ Léon BOURGEOIS であった。社会主義派からの入閣がなかったために、連絡調整機関として「左翼代表委員会 Délégation des Gauches」が創設される。

彼が副議長に選ばれた直後から、国際関係に対する彼の立場をめぐる代議院でナショナリスト(国粋主義者)からの批判が強まる。ナショナリストの議員ラジから代議院副議長であるジョレースが、イタリアの社会主義者コスタ COSTA に手紙で「三国同盟 Triple Alliance がフランスのショーヴィニズム(盲目的愛国主義)と仏露同盟のファンタジーの歯止め contre-
⁽²⁶⁾poids になる」と書いたことを軍事予算についての審議の場で持ち出され、非難された。ジョレースは窮地に陥るところか、反論のはずの演説は平和の価値を称揚する見事な演説としてまとめ上げられる。そしてヨーロッパ全体

の平和維持のための同盟の構想にまで行き着く。⁽²⁷⁾翌日の『官報 Journal Officiel』は街頭で売られ、ジョレースの平和の構想を知りたい市民に同紙は約 1 万部も買われたといわれる。

ジョレースの仏露同盟に対する憂慮は的中し、ジョレースがフランスを戦争に巻き込むと憂慮していた仏露同盟のパートナーであるロシアと、デルカッセ外務大臣が英仏協商（アンタント・コルディアル）締結に尽力し、協商締結まであと一步のところにあった相手国のイギリスが日英同盟と結ぶ日本との間で、1904年 2 月 8 日に日露戦争が勃発する。フランスの利子生活者（ランティエ）や投資銀行は大量のロシア債権を買っていたので、ロシアが劣勢となるとフランス国内に不安は広がった。やがてロシアの敗色が濃くなり、1905年 1 月には「血の日曜日事件」をきっかけに第 1 次ロシア革命が起きる。

1905年 1 月に「フィッシュ事件」で危機に陥ったコンブ内閣を救うために、ジョレースは懸命な弁護を議会でを行う。しかし前年のアムステルダム大会の決議でジョレースの党は「ブルジョア政党」=急進党との協力関係をもはや許容されなくなっていた。ジョレースという一大支柱を当てに出来なくなったコンブ内閣は、同月18日に倒れた。

第 2 インターナショナル・アムステルダム大会で右派フランス社会党 PSF と左派フランス社会党 PSDF の両党を統一する決議を受け入れた後、ジョレースの残された作業は、急進党政権と結ばれていた「左翼ブロック」に執着するフランス社会党右派 PSF 議員グループを説得し、アムステルダム大会で課せられた条件を受け入れさせることであった。

1901年のリヨン大会でジョレースが率いる右派社会党 PSF が左派社会党 PSDF との統一に失敗した後に、今度は自党内部でのミルラン除名の圧力に右派社会党 PSF の指導者ジョレースやブリアンは苦慮する。特に1902年のトゥール大会で主導権を掌握した自律県連合は、ミルランの除名をもとめる動きを強め、ボルドー大会（1903年 4 月）でミルラン除名まであと一步のところでは否決され、党内左派の不満は限界に達していた。ジョレースは急進

党内閣にさえ攻撃の矛先を向けるミルランには批判を強めていたのであるが、いまだミルランを支持する勢力を党内に抱え、分裂を危惧して彼自身はミルラン除名を支持するのに踏み切れないでいた。コンブ内閣の政教分離政策にも敵対し、右派社会党 PSF の主流派からも次第に厄介者となっていたミルランの除名が最終的に確定したのは1904年1月4日に同党セーヌ県連合からほぼ全体一致の票で除名されて、右派フランス社会党 PSF もこれを追認した時点であった。⁽²⁸⁾

第2節 統一社会党創立グローブ統一大会の開催

第6回社会主義インターナショナル・アムステルダム大会が開催された8か月後の1905年4月23日から25日までの3日間、パリ第10区のストラスブール大通り boulevard de Strasbourg 8番地に所在したグローブ公会堂 la Salle du Globe⁽²⁹⁾で、永らく分裂していたフランス主義運動を統一した統一社会党が結成された。統一されたフランス社会党の正式名は「社会党・労働者インターナショナル・フランス支部 SFIO」と称される。そしてこの大会がパリ市のグローブ公会堂で開かれたことから、一般に「グローブ大会」と歴史と呼ばれるようになる。

招請状には自律県連合からギュスターヴ・エルヴェ⁽³⁰⁾ Gustave HERVÉ、革命的社会主義労働者党 POSR からジャン・バティスト・ラボー⁽³¹⁾ Jean-Baptiste LABAUD、左派フランス社会党 PSDF からルイ・デュブリユ Louis DUBREIHLE、右派フランス社会党 PSF からアルベール・オリ⁽³²⁾ Albert ORRYが統一委員会 commission d'unification 書記として署名している。その招請状は7条からなっていた。

招請状の文面には以下の通りに書かれていた。

「統一委員会は3月22日水曜日にフランス社会主義諸勢力の統一大会招集を以下の通りにさだめる。

第1条 フランス社会主義諸組織全体大会は1905年4月23、24、25日にパリに結集する。

第 2 条 この大会は統一委員会が準備した組織化と党の決定的統一を構築する案をブリュッセルの国際社会主義事務局 BSI が認めた諸組織の共通する宣言にしたがって検討する責務をもつであろう。

第 3 条 大会はアムステルダム大会時に確認され、党費納入党員数と 1902 年総選挙の第 1 回投票で獲得した票数を計算した社会主義諸勢力の比例代表を基礎に招集される。

その結果——自律派であれ全国組織の部分であれ——各県連合はつぎの投票権をもつ。

100 人の党費納入党員につき 1 委任を

101 人から 300 人までの党費納入党員につき 2 委任を

301 人から 500 人までの党費納入党員につき 3 委任を

501 人から 700 人までの党費納入党員につき 4 委任を持つ。

そして引き続き 200 人の党費納入党員ごとに 1 委任が追加される。

県連合を持たないグループは党費納入党員の数で全国組織ごとに合計される。委任は諸グループと諸組織の間に配分される。

選挙での得票は全国的に構成される組織ごとに合計され、15,000 票ごとに 1 委任の投票権が与えられる。これらの委任は 1,000 票以下しか得票できなかった県連合には委任が与えられないという条件で各諸組織によって県連合に分配されるであろう。

選挙での得票は同様に 1,000 票以上の得票数を獲得した自律県連合全体で合計される。

第 4 条 委任による投票は代議員の 10 分の 1 によって請求される場合は投票権として認められる。

第 5 条 大会は非公開である。正規の手続きを経て委任された代議員のみ大会会議に出席でき、審議に参加できる。

第 6 条 大会の代議員は大会会議の議事内容について報道に通知してはならない。

第 7 条 統一委員会は大会を組織する責務を負う。

統一委員会への問い合わせ先

書記：ギュスターヴ・エルヴェ（自律県連合）、
J.-P. ラボー（革命的社会主義労働者党 POSR）、
ルイ・デュブリユ（左派社会党 PSDF）、
アルベール・オリ（右派社会党 PSF）⁽³³⁾」

この招請状で注目すべきは、1902年総選挙時点での各県連合の党員数に加えて、1902年総選挙第1回投票獲得票に比例して委任数、すなわち議決権数に付与されていたことである。しかし得票数比例は元左派社会党 PSDF のオスマン OSMIN の本会議での提案によって党規約から削除され、各県連合の委任数すなわち議決権数は党員数にのみ比例して与えられることになる。ただし次回の第2回党大会までは例外としてこの条項は有効とされた。第2インターナショナル時代の選挙重視の社会党の政治的体質は、少なくともこの規約改正案の修正によって一定の後退を見たことは否定できない。

大会は4月23日、24日、25日の3日間、毎日午前・午後の2回の全体会議が開かれた。286人の代議員が参加し、329の委任が代議員を通じて議決権を行使した。県別に代議員数と委任数を併せた議決権数をみると、パリがあるセーヌ県連合が47票、ノール県連合が42票、ついでソーヌ-エ-ロワール県連合が9票、オーブ県連合、リヨンが所在するローヌ県連合が8票、伝統的にゲード派の地盤であるアリエ県連合とエルヴェが率いるヨンヌ県連合が7票となっており、ジョレーズの選出母体タルン県連合は6票のみであった。社会党の地盤となるセーヌ県連合ではヴァイアン派のデュブリユとヴァイアン自身が代議員に選ばれているが、右派社会党 PSF の勢力が強く、ノール県連合ではゲード派を中心とした左派社会党 PSDF が圧倒的多数である。全体として見れば右派社会党 PSF と左派社会党 PSDF の勢力はほぼ拮抗していたと見てよい。

大会議事録の冒頭には大会期間3日間の午前・午後の併せて6回の会議の1名ずつの議長の名前が記されている。議長は4月23日午前がコミュン参

加者として有名な右派フランス社会党 PSF のカメリナ CAMÉLINAT、午後は左派社会党 PSDF のマルセル・カシャン Marcel CACHIN、24日は午前が左派社会党 PSDF でヴァイアン派のマルセル・サンバ、午後は全国消費生活協同組合書記長で中立的なポワソン POISSON、25日は午前午後ともにマルセル・サンバであった。マルセル・サンバは、ヴァイアン派ではあったが、公平で中立的な立場が評価されていた。議長の分担から見て左派社会党 PSDF のほうに多くの議長が割り当てられていた。その下に出席する63社会党県連合と1つの無所属グループからの286名の代議員名が列記されていた。彼らは329の委任すなわち議決権を委任されていた。

最初の報告は「統一委員会の報告 Rapport de la Commission d'Unification」で、左派社会党 PSDF のルイ・デュブリユが統一委員会を代表して大会での最初の報告「統一委員会の報告」を行った。この報告には、社会主義インターナショナル・アムステルダム大会直後からフランス社会党を統一したグローブ大会直前までの社会党統一にむけての交渉過程が簡潔に記されている。その難航した交渉過程については本稿第4章で詳細に述べている。ただ注目すべきはこの交渉結果である協定（「統一協定」と呼ばれる）が1905年1月15日に国際社会主義事務局 BSI の会議で国際プロレタリアートの公認を受けたとされた事実である。

また確認しておくべき事は、党の統一についてはアムステルダム大会で全体一致で議決された統一決議に従うとされ、統一した党の行動はこれまでのインターナショナルの諸大会で確立された諸原則、とりわけ最近の大会である1900年のパリ大会（「カウツキー決議」）とアムステルダム大会（「ドレスデン決議」）の両者に基づくとされていたことである。つまり「カウツキー決議」は否定されていないのに注目すべきである。また「とりわけ現在までにフランス固有の状況と全体の組織化の欠如によって生み出された様々な戦術上の見解の相違と解釈をフランス社会主義諸組織の代表は確認する」⁽³⁴⁾との留保が付け加えられていた。さらにプロレタリアートの権利と利益を擁護するべく勤労者のために有産階級の副次的な紛争を利用し、あるいは社会党

の活動とその政党の活動が偶然的に結びついたとしても、つねにブルジョア階級総体とその手段である国家の根本的で断固たる反対派の党であり続ける階級闘争の党を打ち立てる共通の要望を主張するとして、言外に他の政党との協力を否定しない文言を織り込めていた。

大会の主要な任務とされた「党規約 *Règlement du Parti*」作成のために統一委員会から提出された「規約案 *Projet de Règlement*」を逐条審議する。審議には第2回会議、第3回会議、第4回会議の3回が割り当てられたと議事録には記されている。⁽³⁵⁾

いくつかの修正をあげれば、第7条は「(党グループが属する)市町村の外で党の公的活動はすることが出来ない」と修正された。第11条について出された選挙時の連合 *alliances* は可能かという質問には、1900年社会主義インターナショナルで確立された条件(カウツキー決議)によって連合ではなく提携 *coalitions* ならば認められるが、最小限にとどめるべきであるとの結論が出された。

他の微細な修正を別とすれば、最も重要な修正は前述の元左派フランス社会党 PSDF のオスマンから提案された党規約第16条の全面削除であった。この条項では1902年総選挙での各組織の得票数にしたがって委任数すなわち議決権数を各県連合の党員数による委任数に加えると定めていたが、これを次の全国党大会を1回限りの例外的措置として認め、それ以降の大会では廃止された。オスマン提案には6票の反対票が投じられたが、賛成多数で採択された。

「党規約」の主要な条項を以下に列挙する。社会党は「権力を獲得し、生産・交易手段を社会化する階級の党」(第1条)とされ、党名は「社会党・労働者インターナショナル・フランス支部 *Parti Socialiste, Section française de l'Internationale ouvrière*」と定められた(第2条)。「党員は自分の職業の労働組合に属さなければならない」(第5条)と義務づけられ、党の基礎組織であるグループはコミュン(市町村)ごとに中央グループか支部を形成し(第7条)、「複数のグループからなる党支部は各県単一の県連合

委員会によって管理運営される県連合を構成する」(第9条)とされ、「選挙候補者は選挙区のグループ全体によって指名される」(第11条) ことになった。県連合が候補者選定を承認し、県連合委員会が候補者に党の原則の遵守を監督する委任を受けていた(第12条)。「党の指導は党自体にすなわち毎年開催される党大会に属する」(第13条)とされ、党大会の代表は県連合大会で選ばれる(第14条) ことになった。党大会の間の期間は全国協議会に党の運営をゆだねられ(第20条)、この全国協議会は県連合代表と議会議員グループ(議員団)と実質上の常任執行部である22名の常任執行委員会 *Commission administrative permanente* (以下 CAP と略す) によって構成される(第21条)。2 か月に 1 回しか開かれない全国協議会と違い、半月に 1 回開かれる常任執行委員会 CAP は唯一の常任組織であり事実上の党執行部であった。しかしこの常任執行委員会 CAP には党規約で権限が明確な形で定められていない。この委員会は22名から構成され年次大会で選ばれる。委員の選挙は候補が記されている名簿によって直接秘密投票制度で選出される(第24条)。また大会の代議員は合意のもとに単一の(定員分の)名簿を作成するが、事前の合意がない場合には少数派は比例代表で選ばれる(第25条)。この委員会からは国政議会(元老院と代議院とからなるが、党の元老院議員は第1次世界大戦前にはひとりもいなかった)の議員グループのメンバーは除外される(第28条)。この点にこそ統一した社会党の大きな特質がある。つまり議員とりわけ国政レベルの議員への不信が党内でいかに根強かったかが窺われるのである。全国協議会は、この委員会のメンバーから3名の書記と、1名ずつの会計担当者と副会計担当者を選んだ(第29条)。

国政レベルの議員については、議員の議員グループへの所属は県連合からの派遣によって、すなわち議員が県連合に所属していると認められてはじめて可能となったのである(第36条)。

また党内での紛争の仲裁を行うとともに処分を決める「仲裁委員会 *commission arbitrale*」への訴えは、県連合委員会が受理することが必要とされた(第49条第3項)。

一方党の機関紙や雑誌には理論と方法の問題については全面的な討論の自由が認められていたが、行動においては党大会とインターナショナル大会の決定に従わなければならなかった(第58条)。

統一した社会党においては、上記のように右派フランス社会党 PSF のように県連合の権限がかなり大きく認められていたのである。中央集権的な党組織論を持つに至ったボルシェヴィキの民主主義的中央集権制に比較すれば、かなり緩やかな連合主義的党組織は第2インターナショナル時代各国社会党の共通した政治的体質と言うよりは、フランスの社会主義の伝統と、ミラン入閣時代に勢いを増したフランス労働党＝ゲード派の党組織内部での中央集権的党組織論に反発し、「自律的 autonome」な傾向を尊重する党組織論の影響を被り、旧ゲード派やヴァイアン派も一定程度これを受け入れたことの結果と見る事が出来るであろう。

一番重大な課題であった党規約の採択の後に、「当面統一を保証するための諸措置 Mesures propres à assurer immédiatement l'Unité」という議題について審議が行われた。この議題は大会に統一委員会が提案した「当面統一を保証するための諸措置」について、3点の修正をした上で大会において全体一致で採択されたとの報告がなされた。この「諸措置」はⅠ～Ⅵまでの6項目から成り、主な事項は、Ⅱ. 統一大会から2か月以内に異なった組織に属する同じ県の県連合は単一の県連合を結成し、全国協議会の代表を選出すること、Ⅳ. 「ル・ソシアリスト Le Socialiste」を中央機関紙とし、県連合、支部、グループが定期購読するのを義務づけることなどで、ほとんど特筆すべき問題は含まれていなかった。

次に「精算委員会報告 Rapport de la Commission de Liquidation」が行われた。精算委員会については11条の規約が制定された。同委員会は3つの全国組織(右派社会党 PSF、左派社会党 PSDF、革命的労働党 POSR＝アルマーヌ派)の2名ずつの計6名によって構成される(第1条)。15日以内に各組織に債権、債務と債権者、債務の性格を精算委員会に通知する(第2条)。各組織の債権は統一した党に支払う。各組織の債務は債権を

超過しない限界までの額を統一した党が担保し、旧組織の会計担当者に通常財源によって毎月支払う（第 3 条）。担保されない超過分の債務は、党が負担しない特別財源で精算委員会が精算する（第 4 条）。精算委員会はパリと地方で集会と祭典を組織し、その利益は旧組織の担保されない債務を支払うためにのみ割り当てられる（第 5 条）など、財務についての事務引き継ぎを定めた。

最後に「諸提案といくつかの要望 Propositions et Vœux divers」と題する議事日程が審議された。最初に全国協議会に県連合が代表を送るため 200 キロメートルを超える旅費の手当を支給するため「代表派遣基金」を創設すること、県連合はメーデーの示威運動に革命的性格を与えること、1906 年 5 月の総選挙では全選挙区で候補者を立て、全国協議会が選挙運動の物質的条件を準備することの 3 点が定められた。

次に次回年次党大会の場所を労働争議の渦中で労働者の死者が出たりモージュ Limoges とシャロン-シュル-ソーヌ Chalon-sur-Saône が最終的候補地に挙がったが、くじ引きでシャロンに決定された。

さらに県連合が指名する（よって党の議員として認定される）代議院議員の名前が 44 名になったことが報告された（詳細は後述する）。

常任執行委員会は党規約修正前（修正によって 22 名に増員された）の規約に従って 21 名のメンバーが任命された。

この議事日程の最後に労働争議の渦中で労働者の側に死者が出たりモージュの事件（いわゆる「リモージュの虐殺 les massacres de Limoges」）に対する抗議声明を第 1 回全体会議で可決し、第 2 回全体会議で党の代議院議員による事件の事実調査を行い、この事件についての小冊子「リモージュの犯罪 crime de Limoges」を出版することが決められたと報告された。

加えて 8 時間労働制を要求する声明をジョレースに起草させることとスペイン国王が訪仏する際にスペインの労働者と連帯することが決められ、国内外から寄せられた電文が紹介され、国際社会主義事務局 BSI を代表してヴァンデルヴェルドが、同書記としてカミーユ・ユイスマンス Camille

HUYSMANS が演壇に立って閉会の挨拶をして統一大会の幕を閉じた。

結 論

この大会以降、統一した党では目を見張るべき党内勢力図の変化が起きた。

統一の結果、まず党員数と県連合の数が増加した。社会党統一時に多く見積もっても34,000名の党員であったが、次回第2回シャロン-シュル-ソーヌ大会での報告で34,688名、第4回ナンシー大会で確認された1906年10月の時点での党員数は43,462名へと増加した。急進党と連立維持をもとめる左翼ブロック支持の穏健改良派議員の多くは党を去るか除名された。アムステルダム大会でジョレースは社会党左右両派併せて代議院で46議席を保持し、そのうちジョレースが属する右派社会党 PSF の議員は32議席であったと報告している。しかしグローブ党大会で確認された代議院議員の数は44名に減少⁽³⁶⁾していた。さらに同年の第2回シャロン-シュル-ソーヌ大会で県連合によって確認された議員数は38名、党の統一に参加しなかった議員の数は15名におよんだ。しかし1906年総選挙で11議席増加させて、54議席を獲得したことによって欠損部分を埋め合わせることが出来た。

フランス社会党の統一以降11回の党大会が開催される。パリでのグローブ統一大会と同年の1905年10-11月に開かれた第2回シャロン-シュル-ソーヌ大会、1906年11月の第3回リモージュ大会、1907年8月の第4回ナンシー大会、1908年10月の第5回トゥルーズ大会、1909年4月の第6回サン-テティエンヌ大会、1910年2月の第7回ニーム大会、1911年4月の第8回サン-カンタン大会、1912年2月の第9回リヨン大会、1913年3月の第10回ブレスト大会、1914年1月の第11回アミアン党大会の11回であった。これらの党大会では、1. 社会党と労働組合との関係、2. 愛国主義と軍国主義に対して党がとるべき態度、3. 政治的戦術とりわけ改良を党の政策体系の中にいかに位置づけるかの3点が最も重大な争点として議論された。第1の社会党と労

働組合との関係の問題は、1906年リモージュ大会で争われた。2.については、第1次世界大戦前夜のフランス社会党にとっての一大課題は愛国主義と軍国主義に対して党がとるべき態度であったが、この時期列強間の戦争の脅威が差し迫り、一触即発の状態にあった。故にこの課題はフランス社会党に限らず、ヨーロッパ諸国の社会党にとって焦眉の問題であったし、その国際的論議は第1次大戦直前まで引き続いて行われた。フランス党内に限れば、リモージュ大会で反愛国主義・反軍国主義に採るべき党の態度が議論され、国際的仲裁を受け入れない国の側を侵略者とするヴァイアンが提案しジョレースが支持したセヌ県連合案が圧倒的多数で支持され、翌1907年のトゥルーズ大会でも再確認された。

3.については、改良と革命の関係を定義する有名な「トゥルーズ動議」(1908年10月)をジョレースが党大会で採決させた。この動議は「党は革命の党であるがそれゆえ一層本質的に積極的に改良的であり、唯一それぞれの改革と征服をより広い諸要求とより大胆な征服を出発点かつテコの支点にできる唯一の党」であるとし、「選挙活動に取り組み、社会主義の議会と立法の能力を増強する」と宣言するものであった。⁽³⁷⁾この決議によって党の社会改良への取り組みを積極的に行えるようになった。

強力なノール県連合の党組織を基盤とするゲード派に対し、諸勢力が混在するセヌ県連合で多数派を占めるヴァイアン派は、ジョレース派と提携して党内で多数派を占めるようになる。ヨンヌ県連合を基盤とする極左派のエルヴェ派も党内で一定の地歩を占めるようになった。

ゲード派が党内で主導権を確立できなかった大きな要因は、社会主義革命による経済体制の移行・変革のみが反戦平和の問題を含めすべての派生的問題を解決できるとした硬直した教条的マルクス主義の経済決定論に閉じこもり、理論的發展を展開できなかったことであると「ゲード派 *Les Guesdistes*」の著者ヴィラルールは指摘する。⁽³⁸⁾

1914年の第1次世界大戦が差し迫り、モロッコとバルカン半島での国際的紛争・軋轢が生じ戦雲が暗く立ちこめるようになるに従い、社会主義インタ

ーナショナルと統一フランス社会党の焦眉の問題は戦争をいかに未然に阻止するかという問題と、いったん開戦が避けがたくなった時にいかなる戦術を採るかと言う問題に絞られていく。この時最大の問題となるのは、ドイツ社会民主党 SPD といかに共同歩調がとれるか、そしてドイツの党の反戦平和問題への取り組みをどこまで信頼するか、信頼出来るかと言う問題であった。その時想起されるのは社会主義インターナショナル・アムステルダム大会でジョレースが指摘した「ドイツ社会民主党の政治的無力ぶり」なのであった。

フランス社会党統一から第1次世界大戦の開戦までに生じた上記の諸問題については、以後発表予定の別稿で取り扱いたい。

- (1) キリストの使徒聖パウロの改心をもたらした雷の一撃。新約聖書『使徒言行録』第8章。
- (2) VENDERVELDE, Émile ; *Souvenirs d'un militant*. Paris. Éditions Denoël. 1939. pp. 157-158
- (3) *le Socialiste*. 28 août-4 septembre. 1904. p. 1
- (4) *l'Humanité*. «les conditions de l'unité». le 21 septembre. 1904. p. 1
- (5) *le Socialiste*. 2-9 octobre 1904, p. 1
- (6) *l'Humanité*. 24. octobre 1904. p. 1, WILLARD, Claude ; *Le mouvement socialiste en France. Les Guesdistes*. Paris, Éditions sociales. 1965, p. 576
- (7) Aaron NOLAND ; *The Founding of the French Socialist Party (1893-1905)*. Harvard University Press. 1956. p. 175
- (8) *Ibid.*, p. 175
- (9) WILLARD, Claude ; *Les Guesdistes*. op. cit., p. 577, *le Socialiste*. 8-15 janvier 1905. p. 1
- (10) *le Socialiste*. 8-15 janvier 1905. p. 1
- (11) *l'Humanité*. 12 janvier 1905. p. 1
- (12) コンブの辞任のきっかけとなった「フィッシュ事件 affaire des fiches」は、1904年10月28日にナショナリスト派議員ギュヨ・ドゥ・ヴィルヌヴ Guyot de VILLENEUVE は政府の軍部に対するスパイ制度について政府の責任を問う質問をしたことから表面化した。ルイ・アンドレ Louis ANDRÉ 陸軍大臣は教権主義的な3,000名の士官についてのカードを作成し、そのうち1,800はフリーメーソンから寄せられ

ていたというのであった。グラン・トリアンの雇員ビドゥガン BIDEgain が右翼にこのカードを売ったことからこの事件は始まったといわれる。ジョレースはアンドレ陸軍大臣を弁護し、共和国政府に忠実な士官たちが不当に昇進を妨げられている現状を改善するためにおこなったやむをえない措置であると主張した。

- (13) NOLAND ; *The Founding of the French Socialist Party. op. cit.*, p. 180
- (14) シャルパンティエ、エドモン、ルイ、アルフレッド ; CHARPENTIER, Edmond, Louis, Alfred (1858年–1928年)。弁護士、ロワール県選出の代議士。リヨンで1885年から弁護士を開業し、労働運動と関係を持ち、1892年から事務所をサン－テティエンヌに移した。1893年にサン－テティエンヌ第3区から初当選。社会党統一には参加したが、ブリアンとともに離党した。1902年と1906年に再選された。MAITRON ; *Dictionnaire biographique du mouvement ouvrier français. op. cit.*, Tome 11, p. 176.
- (15) *l'Humanité*, le 9 février 1905
- (16) *Ibid.*, p. 1
- (17) *l'Humanité*. 10 février 1905. p. 1, WILLARD ; *Les Guesdistes. op. cit.*, p. 578
- (18) *l'Humanité*, le 10 février 1905
- (19) NOLAND ; *The Founding of the French Socialist Party. op. cit.*, p. 181–183
- (20) WILLARD, Claude ; *Les Guesdistes. op. cit.*, pp. 578–580
- (21) *Quatrième congrès général du Parti Socialiste français, tenu à Tours du 2 au 4 mars 1902. Compte rendu sténographique officiel*. Paris. Société nouvelle de Librairie et d'Éditions. 1902, p. 63
- (22) *Ibid.*, p. 159
- (23) *Ibid.*, pp. 253–255
- (24) *Journal Officiel de la République française. Débats parlementaires. Chambre des Députés. le 14 janvier 1903, Séance du 13 janvier*, pp. 2–3 副議長には投票総数463票中214票で、筆頭副議長には投票総数423票中209票で選出されている。ジョレースの発言に反感を抱いた議員が代議院内右派と中道派に多く存在したからか、与党が支持したにもかかわらず彼への支持は予想外に少ない。
- (25) ブルジョア、レオン、BOURGEOIS, Léon, (1851–1925)。法学博士であったブルジョアは副県知事、知事を歴任後、1885年から1905年までマルヌ県選出の代議士、1905年から死去するまで同県の元老院議員を務めた。1888年から1917年まで12回大臣を務めたが、彼の内閣は急進党が少数与党であったため1895年11月1日から1896年4月23日までの短命なものであった。彼の社会改良の哲学は「連帯主義 Solidarisme」と呼ばれ、国際紛争の解決にも調停の意義を評価し、ハーグ国際会議で提唱したが義務的条約としては採択されなかった。1920年のノーベル平和賞を受賞した。PIER-RARD, Pierre ; *Dictionnaire de la Troisième République*. Paris, Larousse, 1968, p.

(26) *Journal Officiel*, le 24 janvier 1903, Séance du 23 janvier, p. 172

(27) 詳しい彼の演説の要約は以下の通り。思慮を欠いた陸軍と海軍の軍備費増強を止めなければならないと前置きした上で、平和が持続する希望はあるが、あまりに容易に平和を実現できると説くのは危険である、とジョレースは説く。戦死者の葬列と市民の前にした有名なペリクレスの演説を引き合いに出して、国民の勇気を挫くものは虚言と怠惰と理想の欠如の3つであると指摘する。そして19世紀後半のヨーロッパでの国際情勢の分析から説き起こす。32年この方ヨーロッパでは大きな戦がなかった平和の晴れ間の時代であった、とジョレースは言う。三国同盟は最初から攻撃する意図で構築されたのではなく、我々にもたらされた悲惨な結果に戻らないよう、攻撃されないように現状が維持されるように構築されたのだという。そして我が国の周りを取り囲むすべての国が侵略の意図を持つと言い立てるのが愛国者ではないと言う。ドイツは31年この方我々への侵略の計画を持ってこなかった。ビスマルクの危険でとがめるべき二重の賭には、戦争の脅威を言い立てる周囲を押しとどめ、軍拡競争に歯止めをかける計算があった。三国同盟とドイツが直接的に意図して我々との紛争をもとめるのではなく、ヨーロッパの平和をもとめる勢力が強かったので、侵略と戦闘の組織が次第に防衛的システムに変化していき、ドイツはイギリスと対立して大陸での緊張緩和をもとめ、イタリアでの自由で民主主義的な進展とフランスでの共和主義の勝利は三国同盟から攻撃の性格を脱皮させる。もし仏露同盟がヨーロッパの平和と均衡を維持するための防衛的同盟であれば反対することは出来ないが、国民に秘匿された秘密条約であって、フランスの国内政治にも不安を投げかけていることは問題である、とする。国民国家が基本単位である国際社会では、混沌は不安を招いて衝突の危険を高め、均衡が危険を弱める。平和はフランス革命の原理の一つであると、彼は指摘する。現状では戦争ではなく、民主主義と全面平和が人権についての解決策である。同時的軍縮こそが安全保障の決定的保証である、とジョレースは強く主張した。*Journal Officiel*, le 24 janvier 1903, Séance du 23 janvier 1903, pp. 173-181 ジョレースの生涯を貫くのはロシアが侵略的専制国家であり、仏露同盟はフランスに百害あって一利もないという確信と憎悪にも似た敵愾心であった。

(28) NOLAND ; *The Founding of the French Socialist Party*. op. cit., p. 158, MAITRON ; *Dictionnaire biographique du mouvement ouvrier français. Troisième partie : 1871-1914, de la Commune à la Grande Guerre*. op. cit., Tome 14, p. 102

(29) このグローブ公会堂 Salle du Globe は現在ではもはや存在していない。この公会堂の歴史も詳らかではない。同じ住所に「カフェ・デュ・グローブ le café du Globe」が存在していて、1900年頃から1914年までの間に組合大会などの大人数の集会が開かれた、また1919年にはフランス労働総同盟 CGT 大会も開催されたとの記録が残っている。カフェと公会堂はおそらく同一であろう。

- (30) エルヴェ、ギュスタヴ、HÉRVÉ, Gustave (1871年–1944年)。社会党における徹底した反愛国主義・反軍国主義極左派の旗手となり、彼の新聞『社会戦争 *Guerre sociale*』は社会党極左派の根城となった。しかし第 1 次大戦開戦直後戦争に協力し、熱狂的愛国者となり、社会党から除名された。MAITRON ; *Dictionnaire biographique du mouvement ouvrier français. op. cit.*, t. 13, pp. 47–53
- (31) ラヴォー、ジャン–バティスト LAVAUD, Jean–Baptiste, (1857年–1918年)。陶器工、郵便局員。革命的社会主义労働者党（アルマヌ派）アルデンヌ県党組織の指導者。 *Ibid.*, t. 13, pp. 216–218
- (32) オリ、アルベール ORRY, Albert。ゲード派、ポシビリストを経て独立社会主義者となる。1902年に右派フランス社会党 PSF に加入し、統一社会党から間もなく離脱して、ブリアンたちと社会主義共和党を創立した。 *Ibid.*, t. 14, pp. 192–193
- (33) Parti socialiste (Section Française de l'Internationale Ouvrière) ; *1^{er} et 2^e congrès nationaux tenus à Paris en Avril 1905 et à Chalon-sur-Saône en Octobre 1905. Compte rendu analytique*. Paris, Au siège du Conseil National., s.d. pp. 5–6
- (34) Parti socialiste ; *1^{er} et 2^e congrès nationaux. Compte rendu analytique. op. cit.*, p. 13
- (35) *Ibid.*, p. 16 1日に午前と午後の 2 回ずつ 3 日で計 6 回会議が開かれたのであるから、23日午後と24日午前と午後の計 3 回の会議が「規約案」審議に割り当てられたのである。この大会の審議のかなりの時間がこの案件に時間を費やされたことになる。
- (36) すでに44名（ヴィラルーによれば43名で、公式に社会党を離脱した議員 9 名、1906年総選挙前後に離脱した議員 8 名と計算しているが資料的根拠は明らかにされていない。cf. WILLARD, Claude ; *Les Guesdistes. op. cit.*, p. 584）に減少していた代議院議員は次回シャロン大会で確認された数ではさらに38名に減っていた。この44名には社会党の統一以前に党を離脱したドゥヴィル DEVILLE、ゼヴァエス ZÉVAËS は含まれていない。しかしブリアン BRIAND、コリアール COLLIARD などはこの大会に参加している。次回のシャロン大会までの党を離脱するのはアンティド・ボワイエ Antide BOYER、バロン BARON（以上の 2 議員はブッシュ–デュ–ローヌ県連合所属）、オージェ AUGÉ、ブリアン、シャルパンティエ（以上の 3 名はロワール県連合）、オーガニューール AUGAGNEUR、コリアール（以上の 2 議員はローヌ県連合）、ジェロー–リシャル（海外のガドループ県連合）、グルーセ（セーヌ県連合）と次回大会の審議過程で離脱が判明するカルノー CARNAUD を含めて10名が離脱するが、統一時に党の議員となるアルディ（オード県連合）、バリー BASLY、ラマンダン LAMENDIN（パード–カレー県連合）、ショーヴィエル（セーヌ県連合）ピジェ PIGER（ロワール県連合）と補欠選挙で当選したロブラン ROBLIN（ニエーヴル県連合）を併せて38名の議員を第 2 回党大会の時点で党は有していた。Parti

1904 年の第 2 インターナショナル・アムステルダム大会
と 1905 年のグローブ大会でのフランス社会党 SFIO の
108 (171) 創立 (2・完) (横山謙一)

socialiste ; *1^{er} et 2^e congrès nationaux. Compte rendu analytique. op. cit.*, pp. 39. 57
-58 1906 年 5 月の総選挙では 11 議席増加させて合計 54 議席に増加させた。

(37) DUROSELLE, Jean-Baptiste ; *La France de la «Belle Epoque».* *La France et
les Français. 1900-1914.* Paris. Éditions Richelieu. p. 346

(38) WILLARD, Claude ; *Les Guesdistes. op. cit.*, pp. 588, 592